

ロクな死にかた

作・広田淳一

2010. 11. 18-

2016. 3. 13-

【前提】

◎戯曲世界の設定

現代日本。

と、もう一つの並行世界。

◎想定上の設定

椅子。

柱。

散らかった衣服たち。

◎表記上のしるし

☆ ……同じ数字の☆印を、同時に用いる。

★ ……前の台詞の語尾に置かれて用いられる。「食う意味」。

／ ……台詞の調子・方向性を切り替える。あるいは後続の台詞で断ち切りだす。

▲ ……ここでははなかなかに用いられる。

▽ ……言いながら登場人物の。

— ……時間的な「間」、または意味的な断絶を示す。

・ ……間を取らない読点。

ト書きの「間」と「一拍」は、「一拍」の方が短く。

(1)の(1)は括弧内の文字は発音と異なる。

「1」の(1)は「傍注付きの台詞は強調の意味。強調して発音するわけではない。」

【登場人物／二〇一六・配役】

毬井 ……死んでしまった男。／石本政晶

水野子サト ……毬井の元・恋人。／榊菜津美

水野ハルカ ……その姉。会社員。／一川幸恵

母 ……二人の母。／広田淳一・笠井里美

生方 ……水野ハルカの同僚。／秋本雄基

武田 ……毬井の学生時代からの友人。／渡邊圭介

白井 ……武田の後輩。ダーツが大好き。／遠藤杜洋

みい ……武田の恋人。結婚願望が強い。／中野智恵梨

村瀬 ……毬井死亡時の毬井の恋人。／石井双葉

たつくん ……冥界と現世をうろつく謎の少年。（幼い頃に死亡した毬井の弟）／沼田星麻

一平 ……恋人を看病する男。／糸山和則

看病される女 ……看病される女。／石井葉月

吉久（友人1） ……学生時代の毬井・武田の友人。／沼田

五戸（友人2） ……学生時代の毬井・武田の友人。／糸山

佐川（友人3） ……学生時代の毬井・武田の友人。／遠藤

ススキ ……／沼田

たつくん父 ……糸山和則

たつくん母 ……石井葉月

【0】 たちあがれ

【始動】

◎【始動】 開演前

開場。劇場内は無音。

やがて一人の俳優がラジカセをもって登場。

ラジカセを地面に置き、ボタンを押す。と、音楽が流れ始める。

俳優が徐々に舞台上に現れてきて、準備体操を始める。

俳優同士が会話を交わしたりもする。

俳優たちはまだ役柄としてではなく、単に一人の人間として存在している。

劇場空間に漲る緊張感はめっけり言まっけり。

やがて最初のダンス曲が始まる。

準備運動をしていた役者たちが徐々にクラシックポップスをはじめ、やがてそれはダンスへと発展していく。ラジカセから流れていた音楽がスピーカーからも流れ出し、大音量になる。緊張した空気があふれ、頂点において、劇が始まる。踊っていた俳優たちが全員倒れる。

照明変化。

倒れている俳優たちがゆっくり立ち上がり動き始める。

一平 まずそのお話ししてっつのはさ、ある男が死んじゃった、てっつから始まるんだけどね、そっつは、毬井くん、し奴なんだけしゅわ、

女 マリイくん？

一平 その、毬井くんの友達とか、彼女さんとかがっつままでムダにねてるんだ。「毬井くんが死んだなんて嘘だ、ゼッタイ認めないー」っつっつ。そっつのお話。

女 マリイくんて何(笑)? 苗字なの?

一平 そっつっつ。えーとね、毬(き)の毬(き)井(い)の井(い)でわ。

女 (笑)。なんか女の子の名前みたい。

俳優たち、再び一斉に倒れる。ただ、全員ではない。男が一人だけ立ったまま残っている。

【1】あの人は死んでない

【希聖的】

◎【希聖的】 毬井の手記・1 『超電子バイオマン』

一人の男（毬井）がいる。

毬井はテープレコーダーを持っていて、以下の台詞はそれに向けて話す。

毬井　うしろうしろ、死に方について考えてきました。自分は一体、どんな風にして死んでいくんだらうかって、そんなことはわからなかったんです。最初のきっかけは幼稚園のころに見た戦隊もの、『超電子バイオマン』でした。当時『バイオマン』が一番カッコイイ無敵のスーパーヒーローだったんですが、ある時メンバーの一人、イエロー・フォーが殺されてしまったんです。イエロー・フォーはかわいい女のオチビ、カメリのフレッシュユメだとなんで自分からならぬ武器を必死になって戦ったんですが、「イヤーっ」とか「きゃーっ」とか散々いじめられたあげく、結局、悪の手先によっていち殺されてしまってます。自分は悔しくて悲しくて、その殺されたイエロー・フォーがやっつけてなまめがてら、ヒロインヒロイン、ムチャクチャ興奮したんです。僕はひたすら二代目のイエロー・フォーが登場し、初代イエローは死んだままになりました。ハハハ。「死んだら死んだままになる」という、こんな当たり前のことが当時の自分には衝撃的で、それ以来、「自分は一体、どんな風にして死んでいくんだらうっ?」って思ってたんですが、心の中で大きな位置を占めるようになってきたんです。

倒れていた俳優が二人で起き上がる。

毬井　死ぬことになったその日、自分は池袋に来っていました。そう、11の朝です。

俳優たちが一斉に走り去って、毬井がそれを見送る。

毬井、改めて正面を向き、

毬井　今から死ぬのはそのあじのじよ、自分が死んだあじのお話です。

◎【希聖的】 水野家・1

場面は水野家、チサトの部屋となる。

ハルカと生方がパソコンを覗いてるみたいよ、チサトが近づいてきい、それを隠したのだ。

チサト　ちよっぴお姉ちゃんを回してこの?..

チサト いいよも別に。そう思いたい人には思わせとけばいいし。ただ更新されてんのは事実だから。ホフ、一番新しい記事の田付、一昨日とかになってたでしょ？ しょっちゅう更新されてんだよ。

生方 ちょっと待って下さい、あの、チサトさんこれ、

チサト わかった？

生方 いや、ついさっき更新されたみたいであの、記事が新しく――。

チサト こそ。

チサト、生方が見ているパソコンを素早く取り返し、記事を読みはじめ。

◎【希望的】 球井の手記・2 『池袋から池袋まで』

生方 自分が死ぬことになったその日、自分は池袋に来ていました。彼女がパルコで買い物をしたいっていうから、それに付き合って池袋までいったんですよ。

舞台上、別の場所に球井1と村瀬。

球井1 そんなじゃ、あそこのマックスでもいるから。終わったら電話ちょうだいよ。

村瀬 じゃ一時間くらい戻って来んかなから。

球井1 めっくりだよ。

村瀬 じめんね待たせちゃって。

球井1 しいーいー。

村瀬 じゃあとまた。

球井1 はい。

二人、軽く手を振って別れる。

雑踏。歩き出す人々。

生方 当時付き合っていた彼女は買物が好きでした。もうそれなりに付き合いも長かったんで自分がああいうお店を苦手だったこともちゃんとわかってくれてたんです。

球井2が登場。球井2は武田役の俳優が演じる。

行き交う人々、道路を眺める球井。

球井2 道路の向かい側を眺めながら、自分はまた死に方について考えていました。昨日観たサスヘンシドラマに出てきた死に方が「いかにも」って感じでつまらなかったんで、もうちょっとポップな死に方はないもんか、っていうイメージをふくらませていたんです。たしえは、んー、たしえは、

球井1 駅のホームにこぼれおちた、大きくなって坊主みたいな女子高生たち、

球井2 とか。たしえは、

村瀬 一時間で戻るとしていったのにな。なのにあたし、一時間以上買物して。最悪だよホント。
「じめなね。」

球井1 「どう別に怒ってないし。それより聞いてよ、なんかもうだいたい汗付しちゃったけどおし
俺のすいすい目の前と事故があったせいで、何？ どうしたの？」

村瀬 「じめなね。本当にじめなね。」

村瀬、泣いちゃう。

球井1 おーい？ ちょっと。ねえ、聞いてますかー？ あれ？ おーいちょっと？

球井、村瀬に呼びかけるが聞こえていない様子。

やがて村瀬のそばに、女の友人が近づいてきて、そっと彼女に触れる。

村瀬、手にしていた花束を球井の足元に置き、友人と共に去る。

球井2 気がつく自分、ひとりきりになっていました。あんなに大勢いた池袋の人たちはみな
どうか入ってしまったんですよ。

ガードレールに座っている球井。

球井、何も出来ず「果然と」して「もう、それは」でも「たっくん」が「ひいん」。

たっくん にいちゃん、ショックだろうけど元氣出せよ。ホラ、麦チョコ「あるぜ」。

球井1 いや、あの、

たっくん わかるぜえ気持ちは。わかるよ。

球井1 えーと、あの、誰？

たっくん ん？ 俺？ たっくんだよ。

球井1 や、「たっくん」知らないんか？

たっくん ま、ちょっと聞いてください、にいちゃんこれ、死んだんだぜ。

球井1 死んだんだぜって、えいし？

たっくん いっ、って(笑) オイオイ(小さく突っ込む) にいちゃんそれ「時間」のじつって

んだろ？ それがそもそも勘違いしてもんだ、いいかい？ 「時間」てのは生きてる間に流れてるも

んだろ？ にいちゃんはもう死んでっから「時間」とか関係ねんだよ。ホラ、麦チョコ「あるぜ」？

球井1 いや、食へないし、麦チョコ。「それよりあの、

たっくん ★「あいつは」にいちゃん。

球井1 なんですか？

たっくん 逃げられないぜえ。や、わかるけどな。逃げたいよなって。うん。そりゃたっくんだったって

逃げたいし。にいちゃんだって逃げたいし。やっぱ俺たちや気が合うし。

球井1 は？

たっくん たっくんをぶひひにかじりから逃げられないかと思いつくひやってみるだけじゃ、結局この場面からとられない。何度やっても同じシーンなんだ。

球井 1 あ、何をいつてるのかまったくわからないんですけど、

たっくん まあ、まあ、最初はそんなもんだって俺も。とりあえずホーム、じゃ持っけよ。いつちやんのだから？

とっつて、たっくん、先ほむ村瀬が置っつった花束を渡す。

球井、後ずれる。

たっくん ほら、彼女さんがせつかへ、あ、

球井、花束を持ったまま、走って逃げる。たっくんはける。

▼音響：曲のSか/N。 Ancient Phat Farm Coat

以下、群衆を使った演出。

球井 2 なんだかよくわかりませんでした。よくはわかりませんでしたけど、逃げました。とりあえず逃げて、とりあえず家に帰って考えようっつて、そう思って駅に向かったんです。当時自分は下北沢に住んでいましたから、とりあえず新宿に行こうと思って山手線のホームに向かったんです。が、そこにも、誰ひとり人がいませんでした。それでも山手線は当たり前のように走っています。乗客の誰もいない新宿・品川方面の列車が六番ホームに滑りこみ、僕だけに乗せるとドラマを閉めました。

俳優、動く。

球井 2 ゆっくり走りだした山手線の車内で僕は、なんだかとても落ち着かなくなって、ずっと窓際に立って新宿駅に着くのを待ちました。新宿になら誰か人がいるかもしれない。新宿になら、他人のことなんて一切関係ないように続いていく「動く歩道」みたいなあの日常が、今も変わらず続いていくくれるかもしれない、そう思って新宿を待ちました。

球井 1 けれど列車は、いつまでたっても新宿には着きません。池袋の次は池袋。その次もまた池袋。その次もやはりまた、池袋です。世界にはもう池袋と僕しか残っていないのかもしれない。いや、というより、僕が、僕と池袋の方が、世界から跡形もなく、何事もなかったかのように消えてしまったのかもしれない。いや、そんなはずはありません。けれど列車は、三つ目の池袋を過ぎたあたりから、駅に近づいても速度を落とすことにはなく、むしろ徐々にスピードをあげて、山手線、新宿・品川方面の列車は今や信じられないほどの猛スピードになって、次々に池袋駅を通過してゆきます。無限に数珠つなぎになった池袋駅を、次々、次々……。僕はよるめくフラフラの足どりで、なんとかシルバーシートに腰をおろして、今、目の前で起き上がるじぶがなんなのか、それを確かめる方法について考えました。

球井 2 そいつを確かめる方法が自分にはもう、何ひとつ残っていません、

球井 1 とっつじぶが、やがてはっせりわかったらわ。

母 ガチャリ、と。ハイ失礼いたしますっ！。もーね、ようこそおいでくださいましたこんな小汚いマイ・ハウスだ。

生方 あ、や、お気づかいなへ、

母 ホント狭くて、ねえ。うさぎ小屋みたいでしょ？ あ、ちよつとあの引越した時にうさぎ年だったもんだからそれにちなんでごんまりしたお家にしたわけでは、ありませんっ！ アハハハ。

生方 あ、なんか、すみません

母 あ、申し遅れましたが私あの、二人の姪のユキちゃんです。

生方 あ、そうですか、じつせ。

一拍。

母 ーいんですよ突っ込んで、おそねずけー、

生方 ちよつと文化がよくわからなくて、

ハルカ ★お母さん(たしなめるように)、

母 ★ハイ正解！。そう、お母さんです。姪でもなへ姉でもなへ叔母でもなへ、ハ、ハなんです。

ハルカ わかっているお母さんなの、

母 ちよつとちよつと見事に戸惑ってんじゃないのお母さん。ええ？。ちゃつとリードしてあげて時代をリードする娘たち。You! You!。あら？。まえてみれば「お母さん」「お母さん」「お母さん」と呼ぶのも失礼ね、ウカツウカツ。あの、大変失礼なんですが名前を名乗ったらどうだ？

生方 え、え？。

ハルカ 生方さんへ、職場の友達

生方 お邪魔しています。

母 あー、ウブカタさん、てそれどういふ字をお書きになるのかしら？。漢字、漢字。

生方 あ、えーとしますね、

母 もしかして産毛のウブに、産毛のゲ？。ウブゲにしかなくてねーっ！。もーね。

生方 ーじつ。

母 (姉妹の目線に気づき)あら、また怒られるわね。こんな怖い顔して、見て、理性を失う寸前のチワウみだいな顔して、うーわ、こっちは遺伝子組み換え食物によって巨大化してしまったかわつそが、(瞬時に姉妹を見比べて) やー、癡猛だ。生き残るのはどっちだー？。んー。ファイト！。て、あら？。生方さんちよつと「ムチャクチャパンを食へん」。

ハルカ ムチャクチャじゃな。

母 あ、食へます(生方)？。

生方 いえ。あ、あ、一気に疲れましたね。

ハルカ すみませんホント。ホント恥ずかしいもつ。

チサト カッコつけたってしょうがないじゃん。

ハルカ そついつと次元超えてるでしょ。

母 ちょっと何？ 今日カッコつける日じゃないの？。いってよー。だったらいんちもついで菓子パンなんか、ああ、もうっ（パンを床に叩きつける）。

ハルカ お母さん！

母 カッコつける日だったら何？ 「あ、お飲み物をどうぞー」かなんか言っただけで挨拶がわりのジャック・ダニエル・ツーフィンガー。 「実家は実家でも、ちょいフル紳士の隠れ家的な実家です」ってそういつく演出したのー。

チサト ★要らない要らない。

ハルカ ホントいいからもうっどっかいって。生方にいめんさい、ホントもう帰らせますよ。

母 おおっと・ナイス・コンビネーション・シスターズの登場か？ そんな、ゴージャス・プロポーションのマザーは退場か？

ハルカ 退場だよ。

母 そんなじゃめっけりー。土方きーん。

生方 ★生方です。

母、 はけてるへ。

ハルカ えーと、なに話してたんですけど、

母 ★尖閣問題についてじゃなかったかしら？

ハルカ ★だからいーもつ出てこないでっ！

母 いいじゃない一緒にいっただってー！ （生方に）ねえっ！

生方 あ、はい。僕は別に。

ハルカ もオ。

チサト、 コートを着て、 外へ出て行くしする様子。

母 なにあんたどこか行くの？

チサト その人帰るまで外出してる。

母 やめときなさいよ、 屋外で待機ってそんな警備じゃない警備じゃないんだからあんた、
らあんた、

チサト 外っていったって別に、家の外だけど、どっか部屋の中だよ、

母 なぞなぞ？ 「家の外だけど部屋の中なモノなんだ」って、んー、電話ボックス！

チサト ガストだよ。

母 よしてきた。ガストだったらポイントカード持って行きな。 （財布からカードを取り出して）

チサト いーよそんなの、

母 ★いいからお母さんなのだからもっついてきなさい、いっけい。貯めときて貯めときて。

チサト え、貯めときてのっ。

母 そっだよ。集めてんだからお母さん。ね？

チサト わかったよ。

母 ぐずぐずはせめめの子が自殺だと聞いちゃって、ほんとには確かよ。
生方 そうですか。

間。

生方 ま、ま、でも、思ってたよりは全然元気といつか、なんか話せる感じでしたね。
ハルカ あ、そっ？

生方 はい。一本スジが通って、

ハルカ ね？ だから「頭がおかしい」みたいないどじやないとは思っただけよね、あたしも、

生方 それは絶対、違いますよ。

母 や、おかしいのよ、あの子は昔っから。納豆にソースかけて食べるのよ？ スジは通ってるかもしれないけどネジは抜けちゃってっからね。

ハルカ お母さんー。(黙って)。

母 お父さんー。(口調を真似て、誰もいないところへ向けて)

ハルカ いないでしょ誰も、なに？

母 そうだった、お父さんはあたしが兼ねてるんだって、ウカツウカツ。

ハルカ ★いーから黙って。えーとだから、そうなんですよ。今、あの子、ホントに大事な時期だと思っんです。なんか、ちょこちょこ人にも会えるようになってきたみたいだし、前にほら、つきあってた人なんかとも連絡とっているみたいなんですけど、

母 あ、あ、そっなの？

生方 その、ちょいイケの方、と？

ハルカ そっですそっです。

生方 ☆いー。

母 聞いてないわよ、あたし。

ハルカ 確かにあの、前は電話もメールも一切しないって時期ありましたから、こー(集中する、偏る、という意味のジェスチャー)なっちゃって？。そういう時期に比べたらずっと良くなったんですけど、でも、やっぱりまだ、どっかでなんか、引っかかちゃってると思っんです。それであの、生方をこー(こー)、お願いがあるんですけどね、

生方 はい？。なにこー？

ハルカ あの、突き止めてもらえないですかね、その、毬井さんに成りますまじってブログを写っているっていう人、

生方 んー。なるねえ。

ハルカ あたしそっいつのあんまり詳しくないんで何を調べたらいいとか全然わからなくて。

母 ★ーPアドレスよ。

生方 うーん、まー、とーりあえずブログの運営会社に連絡とってみたりとか、ま、あとは直接メールしちゃったりとかですかねえ。

ハルカ 探して見つかるようなものなんでしょうかね、そっいつのいつ？

母 ★ーPアドレスで全部わかったらいいから。

◎【送信】 寸止めの女と誰かびち男・2

チサトが何かを書いている。

舞台上の別の場所、オーブ・リングと同じ位置に一平と女が登場する。

女 冷えるね、今日。

一平 そうだね。

女 外、寒かったでしょ？

一平 うん。でも昨日の方が寒かったかな。

女 うっそだー。今日がこの冬一番の寒さだったってさ。

一平 ああ、そう？ そうなんだ。ふーん。

女 鈍感だからなあ一平は。

一平 まあ、気にしてないからねそんな。

女 それでさ、ホントは誰か書いてたわけ、あの日記？

一平 うん？

女 死んだと思ったら生きてたっていつお話

一平 ああ、あれね。うん。

女 ねえ、誰か書いてるの？

一平 それはまあ、まだほっきりかわからないうだけ。

女 え？ だって、あの毬井くん？ っていうのは車に轢かれて死んじゃったでしょ？

一平 死んじゃったんだけどね、でも一人の毬井くんが死んじゃうって、別の場所から別の毬井くんが出てるんだ。

女 へー、じゃまだ生きてるんだ？

一平 そうだよ。でね、ある晩おそく、毬井くんに宛てて手紙を書いたことしたんだよ、チサトさんほ。

女 え？ 住所もない人に向かって？

一平 でも、書いたんだよ。

一拍。

一平 それはね、彼女が毬井くんとかえなくなってから初めて書いた、彼に宛てた手紙だったんだ。

チサトが何かを書いている。

音響・携帯端末のクリック音？ ボタンを押す音？

舞台上別の場所に毬井もいて、その姿が照らして出てる。

以下のチサトのセリフはチサト役俳優のふっつは発話されない。

チサト 本当にお久しぶり。毬井くん、元気になってますか？て、書くのもヘンな感じがします。なにせ毬井くんは世間的にはもう、死んでしまっているからです。私のこのメールもちゃんと受け取ってくれる人がいるのか少しだけ心配です。書き終わる前にまだ、「この手紙を出したいっていつか意欲が残っているかどうか」ということと同じくらい心配です。それでも、このメールの回ごうで、あるはもっと別のところか、きっと私のこの言葉とか、思いつく何かを受け止められる人がいると信じて、「この言葉をしまえたい」と思います。——単に吐き出したいだけなのかもしれない。そんなことになってしまったら「ロメンナサイ。なにしろ毬井くんとあたしをめぐめる関係は今、とてもこじれていきます。毬井くんとお別れをして、そのあとで毬井くんに新しい恋人が来て、あたしにも新しい恋人が来て——。そういつかお話をした時よりも、さらにずっと。あの頃は毬井くんがまだ生きていたし、とていつかきだってもちろんなんか死ぬことはないけど、少なうとも誰もそのことを否定したりなんかしなかった。毬井くん、日々この日記を更新して「このころの「毬井くん」に伝えます。あたしは、毬井くんに会いたかったよ。あのころのあなたのかはわかりません。会えなくなる前には知らんぷりをして過してしまいたくせいで、会えなうとわかった途端、端々、いじわるなことを言っているのはおかしいのかも知れません。それでも、会いたかったよ。そのころのあなたも構いません。気が向いたらぜひお返事ください。期待が気長に、下ろすの待つことよりも思っています。多分私は、袖にうつしてあげよう。

一拍。

チサト (送信中)。

空間の変化がめいっ、

女 ちゃんと届いたのかね？ そのお手紙？

一平 届いたよ、もちろんだ。ただ、毬井くんが「じゃあ、別の誰かだね。」

場面転換

武田 ★それだな。

みい なんかバカにされてる気がするんですけど。

武田 でもあれだね、結婚の話好きだねみいちゃん。

みい ★全然結論が出ないからっしょ？

武田 まあ、そっかそっか。

みい ★や別に、そんなあたしだってなしてもしなきゃいけない、ってわけじゃないんだわ、とめっか、しないならしないで全然いいんだけどね、んー、やめるべきの話？

武田 え、なんでなんで？

みい なんか無駄に重いべな、と思って。めんなんか。

武田 いやいや、別に無駄じゃないでっしょ。

みい やでもなんか、なんもめんな。

武田 全然わかるしね、言ってるじよは。

みい うん。

一拍。

武田 そんなじゃ、あれだな。してみっか一回。

みい え・うそ。ホンキで？

武田 ホンキホンキ。

みい でも、「一回してみっか」って何回もするみたいじゃないかい？

武田 いや、そんなつもり無いけど、だからあれだよ、結論から言ったら結婚はまあ、してもいいかなー、とは思ってるよ俺も。

一拍。

白井 んん？

武田 そんな感じ、かな。はい。

みい え、え、その言い方で大丈夫？

武田 ん何が？

みい や、いいんだけどさ、全然あたしは。けどなんか、えーと一応、プロポーズ、でっしょこれ？

武田 だね。

みい あれ、伝わらねー。結構あの、大事な一言っていつかさ、ま、ターニングポイントんなるわけっしょ、あたしらの人生にっしょ。

武田 そっしょ、俺も。

白井 あの、俺、帰りましょっか？

武田 いやいや、いーいー全然。

白井 そっすか？

みい 今、結構いい提案してっわたくし思っただけじゃあ彼

白井 はいはいはい？

武田 ちよこが悪いんだけどや

白井 やこばいっすね、米朝は。

武田 落語？

白井 はい。

武田 いやそれはひどいからや、悪いんだけどちよこも悪いからかな？

白井 え、じゃ、今日はターミ行かないとしますか？

武田 あんま遊んでる感じじゃなくなっちゃって、

白井 そうっすか。あれ、するってえと俺は、回待ってた感じだったんですけど？

武田 いじめたいめたいめ。今度、なんかお前びびるよ。

白井 じゃ、まあ、はい。そんじゃ、また。

武田 うん。いじめね。

白井、はける。

みい なんのメールだったのさ？

武田 いや、友達がなんか、死んだ。

一拍。

武田 お前は知らない奴だけど、あの、毬井っていつ、

みい 仲いい人だったん？

一拍。

武田 それなりじ。

場面転換。

◎【訃報】 参列

場面、毬井の実家のそば、外で溜まっている面々。

武田をはじめ毬井の友人たちがいる。吉久、五戸、佐川。

武田 え、出さないの、葬式？

吉久 おつ。なんか今日のいじめで終わらいつつよ全部。

武田 そうなんだ？

五戸 といつか、そもそも俺達が呼ばれたのもなんか手違いらしいよ、

佐川 奥にいんのは親族だけって感じだもんな。

武田 あーそつ？

吉久 なんか遺言状に書いてあったんだってさ。お通夜も告別式も徳会もなーんもするなって。じゃあその、火葬だけやっておしまい、ってよ？

五戸 いいや。なんか献体に出すんだってよ、遺体は。

武田 献体？

五戸 そつ。だから今晚過ぎたらどっか持ってっっちゃって。火葬もナシだつてよ。

佐川 え、なに献体って？

五戸 あれだろ、なんか医者のおもてがが解剖する、

武田 あー、

五戸 いったじゃないんアイツ？ どうせ死体になったらそんな物体に用はねえみたいなぞ。

武田 え、じゃあ墓とかも作らないってこと？

吉久 やあ、それはなんか適当に、親族の墓にでも入るんじゃないかねの？

五戸 そつなんだ？

吉久 いや、俺もよく知らねえけど。

武田 でも、どつすんの？ 検体に行っちゃつんだつたら墓に入るって言ったつて、

五戸 あー、骨は戻って来るんだよ、解剖したあと何年かしたら戻ってくるんだつて。

武田 あ、そんなかがるんだ？

五戸 ま、すぐ解剖してわけじゃないんだらっつ。ごころと順番があるんだら (笑)

佐川 やだなー、死んでからも順番待ちすんの (笑)

一拍。

吉久 でもホント急だったからなあ。他のヤツなんか集まる暇もなかったんじゃないかねの？

五戸 でも準備はちゃんとしてたんだつてな。

吉久 あ、そつ？

五戸 遺産のこととかも、すつてい細かく書いてある紙があったらっつよ、

武田 へー。

五戸 あつて武田も見してきたらっつよ。

武田 あ、毬井が書いたやつ？

五戸 そつそつ。

間。

▲吉久 なんかごつあつわりしてるよ、かえつていびきあつちやいごつだみな。

▲五戸 毬井の狙いだつたりしてな。普通の葬式やつて、普通に死んだ、ってことになんないよつてな、

▲吉久 そんな複雑なごつするかよ。

場面、再び武田の家。

武田、部屋で疲れてくる。

部屋の奥からみぞ登場。手提げ袋のよじなせのを持ってくる。

武田 あーあ。

みい なんか作るかい？ 食へる？

武田 んー、ありがと。いーやいーや。

みい うん。シヨウちゃん、これなに？

武田 ん、あー、なんかいろいろ、遺品をせじつたよ。

みい ふーん。なんなの？

武田、手提げ袋の中から一冊のノートを取り出す。

武田 ノートが、SMS。

みい ノート？

武田 日記帳みたいな奴とか。あとほまめ、パスワードとか？ ネットの二枚。

みい パスワードとか、銀行でお金とか下ろせたりするものとか？

武田 いやいや、そのごじやなごじだやん、

みい なんか怪しくない？ おつかねーわ。

武田 どうすっかなあ、こんなもん。とりあえず俺の机とこい置こさすわ。

みい うん。なごごんなものくれたのさ、毬井さんよ。

武田 なんてってまめ、約束、だったからかな。

場面転換。

◎【訃報】 ネット墓地

以下、満員電車の車内での雑談。

武田 なあ。死んだあもネット上のめだじだっしついなとどうか思わねえ？

毬井 え？

武田 いや、facebookとか、ブログとかね、

毬井 あー。

武田 やーツイッターは消して回りたいな、絶対。

毬井 じゃ、書くなよ。そのごじや。

武田 だから最近ネットのサービスがめだたはらっ。死んだらネットの整理してやるんやないか、

毬井　へー、そつなだ。

武田　や、俺それで思っただけじゃ、

毬井　うん。

武田　まあ、例えば俺とかがある日突然死んだとして、その、死んだあとにしばらくまよひかがあったら、怖くねえ？

毬井　おー。「臨終なつ」とか。

武田　いや、それはギリギリいけんじやん、もつとなんかさ、「納骨なつ」とかさ、「閻魔様との会食」いる。「生まれ変わり先決定。水牛」

車両が揺れて乗客が偏る。

毬井　なんなんだよ、それさ。

武田　だからさ、ちょっと俺はさ、そついつパスワードなんかをじつかに控えておいて、じつかが先に死んだら、しばらく身代わりになって更新してみる、ってのはどう思う？

毬井　なんか生き延びる間に探め事おきそつだな。

武田　いいじゃん、やつてみよつぜ。おもしろそつじゃな。

毬井　いやー、まあ、ぶっちゃけ俺はそついつの、全然興味あるね。

武田　お、おう、あるんだ。めっちゃ興味なそついつ言つな。

毬井　そつ？「こつなもんだろ、俺。」

武田　そんじや教えるよ、あとでパスワード。

毬井　やだよそんな、あぶねえだろ？

武田　なんだ興味あんだろ？　大丈夫だって誰にも言わないから。

毬井　誰にもっていつか、武田が一番信用できなんだよ。

武田　なんだだよ。じゃあ俺が先に教えるからさ、

毬井　ダメダメ。

武田　なんだよノリ悪いな。

一拍。

毬井　遺言で残してよちゃんさ。

武田　え？

毬井　なんか俺が死んだらじつとこれのパスワードを武田に渡してつわってちゃんと残してよから。
武田　おー。じゃ俺もそついつよか。

電車が新宿駅につく。毬井が下車すべき駅だ。

毬井　そんじや武田。死んだらお前、ちゃんと更新してよ。

武田　何年後の話だよ。

毬井 忘れんなよ、約束だぞ？

武田 おう。お前こそな。

乗客たち、いっせいにほけいさなくなる。
照明変化。

◎【訃報】 毬井の手記・3 『車内』

生方、登場。場所は相変わらず電車の中内ではないのかな。

駆け込み乗車。滑り込みで電車に乗った一人。

生方 間に合いましたね。

ハルカ はい。

生方 あの、こないだまた毬井さんのブログ見てたんですけどね。

ハルカ はいはう。

生方 なんか誰かがですね、あのブログの作者に対して、メールみたいのを出したらしいんですよ。お手紙でいつか、あの、成りすましの犯人に対して。

ハルカ ハー、ハー、そっちなさあつかっ。

生方 はい。そのメールに対してのお返事、みたいなものがブログにまたあがったんですけど、あの、ちよつと、読みますね。(とついでに携帯電話で当該のページを開く)

ハルカ はいはう。

生方 「数日前、死んでいる僕にわざわざメールをくれた人がいました。なにはともあれお便り嬉しかったです。どっしあつたやつ」

ハルカ ふんふん、そっけいあつかっ。

生方 はい。「じゃあさ、『あなたのこと』とついでにお願いに答えるのは難しいです。だって僕はもう——死んでいるから」

ハルカ あへまそのスタンスなんだ。

生方 みたいてはね。

舞台上、別の場所にて武田。

毬井² ただ、別の著書の方もあつたです。僕たちはあつたやつもついでに会っているんじゃないでしょうか？ 僕が生き延びていようとしたやつはあつたやつが、あつかっ。

毬井¹ もしも、生き延びていこう活動の中で、自分が声を出したり、歌を歌ったり、電話をかけたら、メールを送ったり、そのついでにあつかっやつが命を奪って死んだら、死んでからも自分は生き延び続けることがあつかっやつもあつかっやつ。

毬井2 だって僕が歌った歌は再生ボタンを押せばいつでももう一度歌い始めるだろうし、僕のメー
ルや、

毬井1 文章や、

毬井2 声や、

毬井1 言葉は、この肉体を離れて何度でも再生される。

毬井2 だからこうして、僕は死んだあとも日記を書き続けることが出来る。案外と僕はすでに、
生方・毬井1 不老不死なのかもしれない。

ハルカ、生方、退場。

【3】 武田の生方

◎【武田の生方】 村瀬、来訪、理由。

場面。再び武田の部屋。

武田と白井、白井に伴われて一人の女（村瀬）登場。

武田 あ、どうしてやうしていかにいへ、

村瀬 失礼します。

武田 えーと、それで今日はあの、毬井のいじくで何かお話があるってこといじくなんでしょうね、村瀬さん、どうしてはか。

村瀬 はい。はい。

武田 白井、悪いんだけど、ちょっとなんか飲み物とか持って来てもらっていい？

白井 あ、えっと、それ、はいはいですけど……。え、このあとダーツいかない感じですか？

武田 うん、ダーツは、うしあえずおつうじす。

白井 えー、もしなかなますかマジック。

武田 うしあえず、飲み物持つてきてもらっていいですか？

白井 え、何飲むかですか？

武田 別にななでもございよ。なんかあるなら適当にいい。

白井 はい。

白井、いじくいじく、お茶をいじく部屋の奥へ下がる。

村瀬 今日はあの、突然お邪魔してすみませう。

武田 ★シンシンシン

村瀬 「連絡差し上げしからうとしようかとも思ったんですけど、断わらねちゃったらかえって余計にひんなるかな、と悪いけど。

武田 はい。

村瀬 どうしても武田さんと話してお話したかったです。

武田 それはお話ついでの話、あの？

一拍。

村瀬 どうしてか、武田さんが更新してあるんですけど、あの「プロ」って、あんな風に勝手に毬井さんへのアクセスのいじく書いたりして、

武田 えーと、

村瀬 なんの権利があつたか、いじくですか？

武田 えっしゅいめななせう、なんかよくわからないうちまはせう、え？ 村瀬さんは毬井じいちゃんに
関係の？

村瀬 まあ、彼女ってしゅいか、お付き合ひしてました。

武田 ああ、そしゅいか。

村瀬 で、大学時代のお友達に聞いてまわったんです、あのブログを見て。それでなんか、遊びでハ
スフードを渡すとか渡さないとか、そしゅいお話をされてたんですよね？

武田 ああ、それはまあ、そしゅいなとてはせう、

村瀬 はい。だから、そしゅいなとてはせうね？

一拍。

武田 すみませんあの、勝手なしゅきをせしゅいするのはちゃんじ、わかっているつもりなとてはせう、

村瀬 わかっていたらやんなじとてはせうなとてはせう。

武田 はい。すみませう。

一拍。

村瀬 まあ、でもそんな怒っているわけじゃないうちまはせう。

武田 あ、はじゅい？

村瀬 今、武田さんに認めてもらって半分べらうしゅきが済んだってしゅいのもあつせう。あーあ、そう
だったんですねー、やじゅい。

武田 はい。あー、そしゅいですか？

村瀬 でも武田さん、じゅいしてあんな細かいしゅい知ってるんですか？ 隅田川の花火いったときに人
ごしゅいに酔って途中で帰ってきちゃったア、とか、毬井くんにあたしがプレゼントした時計を無くしち
ゃったときに全くおんなじのを買って隠してたんだけど、それがあたしにバレちゃった、とか。

武田 ええ、ええ。

村瀬 たまになんか、これは本人じゃなきや絶対知らないだろ、みたいなことが載ってるから。

武田 あー、それはあの、毬井に個人的なノートというか、日記みたいなものも一緒にもらってたん
でそれで、あー、なんだと思ったら読みますか村瀬さんも？

村瀬 ノートを？

武田 はい。

間。

村瀬 まあ、辞めじゅいませう。

武田 そしゅいですか？

村瀬 なんか、ずーっと読んでじゅいそしゅいだから。

んか言い訳したくなるんだよね。あ、それ違うよ、あたしそういうのじゃないからわかって。だから嫌いならないですよ。

白井 いや、わかります、それ。嫌われんの怖いっていうのは、もう恋のはじめですよ。

武田 でも相手が嫌いっていうのなら、諦めるしかないんじゃないの？

村瀬 それは恋愛じゃないんだって、だから。別にあたしだって諦める時は諦めるもん。

白井 そうですよ。

武田 あーそっ？

村瀬 あのね、私、初めて付き合った時って、その相手っていうのがすっぴん、小学校の終わりのくらいから中学、高校ってすっぴんと好きだった人で、

武田 えー、小学校？

白井 長いっすね。

村瀬 そうなのさうなの。んで高3でやっとその人と付き合えることになって、だからもう、チョー長い片思いだったから、うわー、みたいな感じで、現実感ないっていつか、夢みたいよ。

武田 なんて人だったんですか？

村瀬 え、なに？

武田 なんていうその、好きな人、名前は。

村瀬 名前はいいじゃん。じゃあ、名前はね、えっとまあ仮にススキくん。

白井武田 ススキくん。

舞台上、別の場所に「ススキくん」が登場する。

村瀬 そのススキくんがね、ある日突然コクって来て、好きだよ、とか言われちゃってあたし、

武田 すっぴんじゃな。

村瀬 でしょ？ 超がんばったからね。「うっすまみジでっ」みたいななって。「大丈夫、あたしだよっ」みたいな。なんかその人ももう、付き合えばめっちゃめっちゃ長くなったから、で高2の文化祭がきっかけで仲良くなったんだけどね、そこからはなんか、結構なたぐいさ言ひ関係していつか、「おめエウゼーから帰れよ」「死んでいい」みたいな、そんな感じで。

武田 はいはい

村瀬 だからむしろ逆に、恋愛とかのモードに入るのがすっぴん大変だったって。逆にこれは友達モードから出れないパターンハマったか？ とか思って結構悩んでただけもあるんですけど、ススキ なんかお前といると楽しいよな。

村瀬 とか言われたい、「はあ？ 何いってんの」「うって一応、返したんだけど、何はいつかはめっちゃ好きだから、都合十年めっちゃ好きだから、テンパりまへってキョドリまへっちゃって。したらなんか、

ススキ え、楽しくねーのお前は？

村瀬 とか聞かれて、もう超ヤバいってなって、顔とかめっちゃもう、ボンってなってただけ「え、まあ、そりゃ楽しんでいけばいい」って返したら、したらなんか回りが「コクって楽しんで」

ススキ 良かった。

村瀬 でも！ でも！ でも！ そのあと、何年かたつて、やっぱり好きだが、このまま、
かもう一回付き合おうってなってる、そんなときもある。

武田 おお、ホント執念だ。

白井 良かったっすね、

村瀬 て、それがこないだ死んじやった人なんだけどね、

傘を差した群衆の中に毬井が一人残っている。

すぐにまたその人影は群衆に紛れ込んでしまう。

場面転換。

◎【武田と生方】 更新停止

時間経過。村瀬、退場。

みい、登場。雨の中歩いてきたと見え、傘を置く。

みい ただいまー。

白井 あ、お帰りなさい。雨すくいですか？

みい うん結構ちゃんと降ってる。

白井 うわ、バイクで来んのやめりゃ良かった。

みい なあ、シヨウちゃん、なんか外にお客さん来てるよ？

武田 お客さんて誰？

みい なんか生方さん、ていう男の人。

武田 ふーん、誰だろ？

みい、外へ出て行くとする武田に傘を渡す。

場面、家の前の路地となる。外は雨である。

生方 あ、武田さん、ですよね？

武田 はい。

生方 私、生方と申しますが、ちょっとお話よろしいですかね？

武田 はいですよ、

生方 毬井道義さんの日記ブログに関してなんですけど、あれ、なりますまじをやってるのは武田さん、
ていうんですよ？

武田 えーと、お？ どちら様なんですかね、あなたは？

生方 毬井くんの恋人の、そのお姉さんの友達です。

武田 他人じゃないですか、それ(笑)。

生方 ああ、いや、僕はまあ、そうなんですけど、こちらあのお姉さん。

ハルカ 水野ハルカです。はじめまして。

武田 お菓子？

ハルカ 喜びのわかってるんだからちゃんと本当においしいお菓子が無いんだったらやめてあげて下さい、って話で。あなたのやつってめいめいは結局だつて、ちやちやも言わせておいて、最後にはお菓子に毒入れて殺す、みたいなことになっちゃうんじゃないですか？ そうですよ？

武田 いや、まあ、そのお菓子の比喩はちょっとよくわからないんじゃないですか？

生方 じゃあ、メキシコ人にタコスを食べたらどう？

武田 ★メキシコ人の話はもっとういいたいですよ！

ハルカ じゃあ、何人の話だったらいいたいですか！

武田 ★人種じゃねーよ！ っつて、そういう話じゃなくいですね。

一拍。

生方 僕もあの、なまじうていごのかむからなごらまはせ、じいさ面白くも無いしごめなごめ。じいごらまはせ。

武田 面白くない。

生方 いや、毬井さんという個人がその、肉体としては「く」なっちゃってしまっているのに、まだブログを更新したりして、しかも、毬井さんはブログのコメントに返信したりして、何かコミュニケーションの可能性が残っているわけじゃないですか？ これはなんだか、ちょっと面白いな、って思ってますよ。

武田 興味本位ですか。

生方 そうです。正直僕は、興味本位で首を突っ込んでいる人間です、もともと。いや、まあ、今もですけどね。でも、チサトさんとか、ここに居るハルカさんとか、そういう人たちの代わりに「今、しゃべっている部分もあるんじゃないか、っていう、そういうつもりもござんるともします。つまり、僕はもしかしたら「なりすまし」なのかもしれない。あなたと同じように、

一拍。

武田 あなたは、どっつて欲しいんですけど、僕に？

一拍。

生方 わかりませぬ。

武田 わからないのになにに来たんですか？

生方 ★もちろんあの、ハルカさんは、止めてほしいって言うんですけど、それは妹の、チサトさんのためってごうのもありますけど、いや、まあ、そんな綺麗な姉妹愛がどうとかそういうことを言っているあなたを黙らせるつもりは無いんです。あなたにだって、毬井さんに対しての何かしらの思いがある、じいごらまはせ。

武田 はあ。

一平、歩き出す。女、それを呼び止めるらしい。

女　ねえ、毬井くんはね、

一平　ん？

女　どうして友達に日記なんか預けたりしたんだろうね？

一平　うん。どうしてだろうね。

女　(笑) 一平が考えたお話なのよ。

一平　いやア、自分で考えたからってわかるとは限らないんだよ。

女　へー、そっぴつもの？

一平　うん。そっぴつもの。

一拍。

女　じゃ、あたしの予想を言ってもいい？

一平　うん、どーぞ？

女　毬井くんが日記を預けてたのはねえ、呪い。

一平　呪い？

女　うん。多分、毬井くんは武田くんのこと大好きだったからさ、死んじゃってから武田くんの中だけは死んじやいたくない、って思ったのかもね。

一平　うーん。鋭い指摘、かもしれない。

女　でしょ？

一平　そっじやないかもしれないけど。

女　どっちだよ。

一平　呪われたって思う人もいるだろうからね。死んでもその人と関われるんなら大歓迎、って感じだよ。

女　気持ちわるーい。

一平　気持ちわるいって言うんだよ(笑)

女　だって、気持ちわるいよ。

一平　納得できない人もいるんだよ。だって、それまでずっと仲良くやってきたのにさ、あんな口突然「やようなら」なんて、誰に怒ったらいいか、わからないじゃない？

間。

女　でも、もどきな感じするところって？　自分が死んじやしつぽしつぽ？

一拍。

一平　大丈夫だよ、きつぽ。

女 ん？

一平 そんなに嫌な感じじゃないはず。だっ、いいよね。

女 うん。だっ、いいね。一平が死んじやっしゅきませや。

間。

▲女 じゃ、もう中に入ろう。

▲一平 風邪ひくね。

◎【武田と生方】 カーテンとサイダー

たっくん、父ちゃん、母ちゃんが登場。

父ちゃん なあ、たっくん。雇われた時しゅんたなだっしたか覚えてる？

たっくん お、なんだなんだやびから棒に。待っしゅんわや父ちゃん、なに「雇われたしゅん」のせ、それ、しゅんじゅん？

母ちゃん たっくん、長しゅん暗しゅん狭しゅんじゅんた思っただけや、それしゅんな思っただしゅん思っしゅん。

たっくん あー。いたかなーそんなじゅん？

父ちゃん いたんだよ。それは父ちゃんよく知っているから間違っな。

たっくん そっ言わわっしゅんそんな気がしるーとむむけしゅん、あ、そっしゅん？

父ちゃん 居たんだよ。そうだろう？

たっくん ま、どっちかと言えば居たかな。あー、たっくん、そっ言いたわ。

母ちゃん じゃあそのさ、暗しゅん狭しゅんじゅんから出てきた時しゅんたなだっした？

たっくん それがもう苦しいのなんの。母ちゃんはキャンキャン言っしゅん、苦しいわ騒がしいわやしゅんしゅん。とっ思っしゅん、ちよっしゅん、じゅんだけの話、たっくん声出っしゅん泣いちゃった。

母ちゃん そしたら、たっくん、死んだしゅんしゅんしゅんたなだっした？

たっくん は？ なにっしたのさ？

父ちゃん たっくん、死んだ時でどんなだっした、しゅん？

たっくん なにっ知るかよ。だっして死んだしゅん、は？ しゅんじゅん？ たっくん、まだ死んでなっしゅん？

母ちゃん はははは。ダメだ。完全に寝ほけちゃっしゅんるむむらや。

父ちゃん いや、死にボケちゃっしゅんただよ。

母ちゃん 死にボケ死にボケ

たっくん え？ え？

母ちゃん たっくん、違っしゅん。たっくんないだ死んだじやないの。

たっくん ええ？ 「冗談だっしゅん」。

父ちゃん 冗談じゃないよ。しゅんは父ちゃんよく知っしゅんるから間違っな。

たっくん ああ。おお？ ああ。

毬井 それじゃ。

チサト あ、

毬井が去り、チサトが残る。

◎【現美的】 水野家・5

ハルカ、母、登場。

場面・水野家に戻る。朝の風景。

チサト、机の上に乗っ伏しているようなダンケた姿勢。

ハルカ どうしたのチサト、目シヨボシヨボさせてっ？

チサト んー？ そっ？

ハルカ なんかにこんな目腫むぼったいよねっばらへ。へ。

チサト 寝不足かな。

ハルカ ぶーん？ 忙しいんだ。

チサト てわけでもないんだけど。ねえ、お姉ちゃん。

ハルカ ん？

チサト こないだね、あたし夢で毬井くんとか会ってさ、

ハルカ へー、そっ？

チサト 起きてきたら泣いてっ、あたし。

一拍。

チサト 最後に毬井くんの顔見たときも絶対泣かないって思ってた、実際泣かなかったあたしがさ、夢でちらっと会ったべらら泣いちゃっつい。

ハルカ まあ、いいんじゃないの別に。

チサト 良くないよ全然。だってあたし最後に毬井くん見た時からずっと泣いてなくてさ。一年で一回も泣いたことなかったもん。だからなんかね、もう、あたしが涙を流さない限り毬井くんはそのままずっと生きているの、って思ってたのに、あっさり泣いちゃっつい。

ハルカ でも、ちょっとずつきりしたんじゃない、それっ？

一拍。

チサト うん。

母、少しだけ離れたところから、

母 まあね、こんなのお母さんがいじごじじゃないのかもしれないんだけどね

チサト ★じゃ黙ってし。

母 ★よしました。——ちよつとでもダメ？

ハルカ・ハルカ ダメ。ゼッタイ。

母 おおっと、まだしてもナイス・コンドナー・シスターズの登場か？ ゴージャス・プロボ
ーシヨンのマザーは退場か？

ハルカ うんうん、なに、お母さん言っつ？

母 まあ正直ね、

ハルカ うん

母 あたしはどっちでもいいと思ってるわけにじいじの問題は。

チサト どっちでもよくなー、そんじゃねー。

母 ★まだしゃべるの、まだしゃべるからその居なさーい。あのね、そのまあ、毬井さんがどつかで
生きてて欲しいなっつていっついは、お母さんもよくなるの。お母さんだっつてベスが死んだ時には—
ーベスの話はやめましよう。ベスは今、関係ない。

ハルカ うん。

母 バカみたいになっつていっつうだけだね、あなたが生きてんだーっつて言い張ってるかぎり、毬井さん
は生きてると思っつ。だっつてそれは、実感があるから言えることだからね。——そっつうそっつ、生き
てるんだなあ、っつていっつ実感があるから言えるわけでしょっついは。それはでも、いっつかは言
えなくなっつちやっつただからね。それは別に毬井さんだからとかじゃなしに、誰だっつて、お母さんだ
っつてそっつでしょ？ お母さんだっつていっつかは死ぬわけだから。あんたらがお母さんのことを言、生き
てるなあっつて思っつて、実感をもっつてるわけだし、でもいっつかはね、いっつらがねばっつて思い込も
っつていっつても、いっつちやも生きるとは言いがたいなっつていっつ風になるわけじゃない？ なんか、べじゃ
ーっつて。いっつかはそっつう日が来るんだからさ。て、なにをしてみりしてんのかしらね、あたし
は。

ハルカ なんなのちよつと聞いてんだから、

母 あ、そっつ？ 大丈夫？

ハルカ 大丈夫だから、なに？

母 ま、でも、今、全部終わっちゃったんだけどね。言っただけだし。

ハルカ あっそっつ。

母 うん。

チサト そんじゃ行っつてきまっす。

ハルカ 行っつて来まっす。

ハルカ、チサト、相次いで家を出る。

母 あんたら今晩はじいじのっ、夕飯、帰っつていっつ。

ハルカ あたし食べへるー。

チサト あたし要らない。

場面転換。

白井 ヤフオクでめっちゃ安く出てたんで。イチキュッパですよ、イチキュッパ。

武田 一万九千八百円？

白井 十九万八千円。

武田・みい 高っ！

白井 いや、何いってんすか普通はマシンなんかもって全然高いですよ。

武田 よく買ったな。

みい ねえ。

白井 だけど、なんか考えてみたら俺んちって全然遊びに来る人いないんで、だったらみいさん来ます？

みい ダーツはやりたいたいだもんホントじ。

武田 (白井に) 俺を誘えばいいじゃねえかおまえ

白井 へー。そうじいじいします？。じゃ誘いますよ、武田さん。

武田 おっ。

白井 「今度俺んち来て一緒にダーツやりましょうぜ」？

武田 ★また今度な。

白井 ほらあつ、武田さん俺んち来る来るじいじい一回も来たことないからな。

みい ダメだべ、じいじい人だから。

武田 いや、まあ、ぶっちゃけお前んちについてダーツとか？ 俺はそいつの全然、興味あるな。

白井 え、え？ あるんすか？ なんすか、めっちゃ興味なぞないじ。

武田 こんなもんだら、俺。

白井 ま、ま、そっすけど、

武田 お前が来てくれるから面倒ワサくない。

白井 ★とにかくさっきのは誤解ですからね？ だいたい、みいさんなんかまた結婚結婚いっててすげえうるさかったんですから、そんな人口説じいじいって気になんないですよ。

武田 もの好きだな、ホントじ。

白井 だから違いますっしー！

みい ちよつとシヨウちゃん、それじいじい意味？

武田 いや、もの好きじいじい、白井じゃなくして、みいがね。

みい あたし？

武田 そうそう。へんなやつだよな。

みい なにがよー。

武田 ま、大体わかったわ。そんじゃあ、着替えて出かけっか？

白井 はい。え、どこ行くんすか？

一拍。

白井 まさか、

武田 その「まさか」だよ。(ダーツのジェスチャー)。

毬井 僕らは月より高い空の上から、ゆっくりゆっくり落ちていく。白い雲の隙間を超音速でしじめるように、パラシュートを忘れたスカイダイバーみたいに落ちていく。

僕と君はあんまり高いところから落ちていくんだけど、いっしょか地面に叩きつけられるその日のことをすっかり忘れてしまっかもしれない。落下しながら僕たちは、すっかり恋になんか落ちてしまっかもしれない。その時のことは忘れて、その時のことはすっかり忘れて、今は、君と一緒に遠くかある月の輪郭のことを。今は、君と一緒に。消えかかると日々の残りの香のことを。

いっしょか雲の回りで、僕たちの会えなかった子供たちが、僕たちの通れなかった道を通して、新品の服の新しい革のにおいを身にまとい、僕たちの流したのと似たような成分の分泌液を、きゅと流したりする、その時のことを。僕はぼんやりと夢見たらいい。

群舞。ダンス終わりで終演。

暗転。

無音の中、明転。一礼。

カーテンコール曲に合わせて俳優たち退場。

音楽がラジカセからのみ流れる状態に。

その電源を毬井が切ると再び暗転。

幕